

# 色彩と グラデーションの 妙技で魅了

ブラックボードに浮き上がる、

色鮮やかで立体的なイラスト。

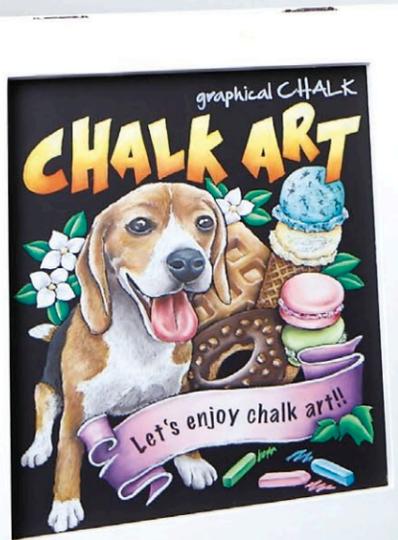
大垣市在住の稲川ひろみさんは、

看板や店内装飾を手がける

チョークアーティストとして活躍する傍ら、

岐阜県下初の本格チョークアート教室を開設し、

普及にも努めています。



## 近代アートとして広まる チョークアートの魅力

街角で見かけるおしゃれなメニューボードをはじめ、ウェディングボードやウェルカムボードなどで、目にする機会が多いチョークアート。オーストラリア発祥の現代アートです。メルボルンのマーケットで、精肉店が黒板に日々変わる価格を描いたのが始まりといわれています。次第に耐久性や発色の良さへのニーズは高まり、現在はオイルパステルで描く手法が主流となっています。

特徴は目を奪われる鮮やかな色彩と、色の明暗や光と影をグラデーションで表現した立体感。指で擦って色を混ぜ合わせていく、手書きならではの温かみも魅力でしょう。近年はアートの分野として日本でも認知されつつあります。大垣市在住の稲川ひろみさんも、チョークアートの魅力にひかれ、その道に進んだ一人です。

グラフィックで培った  
キャリアを生かせるアート

子どもの頃から絵を描くのが大好きだった稲川さん。中学時代は吹奏楽部に所属していたものの、演奏会のポスターや大会の演奏を録音したレコードジャケットの依頼が舞い込むほど、早くから絵の才能を評価されてきました。「自分は絵で人の役に立てるんだと感じました。それが原点だった」と話します。

名古屋造形芸術短期大学を卒業後は、チラシなどをデザインするグラフィックデザイナーとして活躍が、



オイルパステルは、発色と色の伸びの良さが特徴。学校にあるようなチョークとは異なり、油分を多く含むためクレヨンに近い画材です。基本的に一度書いたら消せないため、どんな作品も一発書きで仕上げています

「自分は絵で人の役に立てるんだと感じました。それがチョークアートの原点だった」



木の板に専用塗料を塗り、ブラックボードから手づくり。下書きをしたら、数色のオイルパステルを明るい色から暗い色の順へ塗っていき、指で混ぜながらぼかしていきます。90色以上を組み合わせ、さまざまな色を生み出します

グラフィックデザイナーとして活躍が、元来看板の手法であり、アートでもありません。オーダー有りきならばグラフィックデザイナーとして培ったこれまでのキャリアを生かせるのではないかと考えた稲川さんは早速名古屋の教室に通い、技術を習得。2013年に手描きアートとグラフィックデザインをコンセプトとする「グラフィカルチョーク」を設立して、制作活動を開始し、翌年には岐阜県下初の教室を開校しました。岐阜市と大垣市の2校で、今までに20代〜70代までの80人を指導してきました。

## 人や社会とつながる喜び 今後はプロ育成にも尽力

開設したウェブサイト、知り合いの店などに飾った作品が評判となり、地元で着実に注文は増えていき、一番記憶に残っているのは、初めて受注した作品だそう。アメリカカンパニアルのメンズショップからの依頼で、宇宙飛行士を描きました。「宇宙を舞台にした映画の雰囲気を取り入れて、スタイリッシュな店に合うよう仕上げました」と振り返ります。写真のようにリアルに描くか、デジタルで描くかなど、依頼者とイメージをすり合わせ、全工程に費やすのは2週間ほどだといえます。「店舗

を飾る、また販売促進ツールとして役に立てば、社会にも貢献できる。これからは人の役に立っていききたい」と稲川さん。チョークアートで築いた色んな業種の人との出会い、生徒たちとの関わりを通して、人とながら喜びを実感しています。

現在は受注するアイテムの幅を広げ、水性マーカーを使って伝えたい内容をタイムリーにアピールするオファリングボード、白墨だけで描く黒板アートやガラスペイントなども手がけ、年に1度は精力的に作品を制作し、展覧会を開催しています。

教室からプロを輩出するのが今後の課題。「趣味に終わらせず、仕事にできるよう、自分の経験のすべてを生かして導いていきたい」と力を込めます。稲川さんが生み出すチョークアートの輪は、まちや人々に元気や活気を注いでくれるでしょう。



## amazing OGAKI

910×910mmと大きなブラックボードに、大垣市の名物をちりばめた作品。描きながら改めて自分のまちの魅力を再確認できました。岐阜市をモチーフにした「amazing Gifu」は、岐阜市観光協会へ寄贈しています



「女性らしくおしゃれなデザインを」という岐阜スズキ販売からの依頼で、カフェの看板をイメージして制作。ボディの質感やフロントガラスの透明感など、自動車は細部まで描き込み、リアルさにこだわりました。新聞の折り込みチラシとして原画が使われたほか、店頭でも展示。チラシを見た人の中には、あまりのリアルさに絵だと気づかなかった人もいました



JR岐阜駅にある駅市場 DODA-GIFUの店内ディスプレイを制作。野菜や果物、パン、精肉、鮮魚など、各売り場にチョークアートが飾られています。食べ物によりおいしように表現するのがチョークアートの醍醐味



**Profile**  
稲川 ひろみ  
1972年岐阜県揖斐川町生まれで、大垣市在住。グラフィックデザイナーとして20年の経験を持ちます。2017年5月に岐阜市のぎふメディアコスモスにて「岐阜のチョークアート展」を開催以降、2年に1度はぎふメディアコスモスでグループ展を開催。定期的に展覧会も行っています。山登りやランニングが好きで、フルマラソンへも定期的に参加。JBA日本ボードアート協会会員

**Information**  
趣味で楽しみたい人からプロを目指したい人まで、ベースに合わせて学べる  
graphical CHALK (グラフィカルチョーク)  
〈大垣教室〉  
大垣市領家町1-57 イーブレイス  
開催日/隔週月・水曜日  
アート看板制作やチョークアート教室の申込みは下記ウェブサイトの問い合わせフォームへ  
<http://g-chalk.com>